

2025 年 06 月 17 日（火）【外為 L a b】松田哲

タイトル：【今週は、主要国の金融政策の発表】

日銀は、昨日本日（2025 年 6 月 16 日、17 日）の金融政策決定会合で、政策金利を 0.50% に据え置くことを決定した。

そして、2026 年 4 月から、四半期毎に国債買い入れ額を 2000 億円程度減額することも決定した。

マーケット（金融市場）の事前予想通りで、発表直後の値動きは小動き。

+++++

今週は、主要国の金融政策の発表が相次ぐ。

今日明日（2025 年 6 月 17 日、18 日）には、米国の F O M C（米国連邦公開市場委員会）がスケジュールされている。

つまり、米国の金融政策の発表は、明日（2025 年 6 月 18 日）。

+++++

F O M C に関して、マーケット（金融市場）では、4 会合連続で利下げを見送る（つまり、政策金利の据え置き）を事前に予想する向きが大勢を占めている。

それに対して、トランプ米大統領は、繰り返し、何度も、早期の利下げを要求している。

だから、今回（2025 年 6 月 17 日、18 日）の F O M C で、政策金利を据え置いた場合は、トランプ米大統領が、F R B（連邦準備制度理事会）の金融政策を、再び、批判する可能性は大きい。

トランプ米大統領は、今後も、米国の景気浮揚のために、金融緩和を求める、と考えます。

しかしながら、F R B は、利下げに踏み切るには、関税や移民、税制に関しての問題点を、トランプ政権が解決する必要がある、としてきた。

不確実性が高い間は、様子を見る必要がある、ということだ。

さらに、直近になって、イスラエルとイランの相互の攻撃も、その過激さを増している。

イスラエルとイランの問題は、世界経済に関して、新たな不確実性の原因となっている。

そのように考察すると、今回（2025 年 6 月 17 日、18 日）の FOMC では、政策金利の据え置きを予想するのは、順当と言えるだろう。

+++++

さらに、主要国の金融政策では、今週の木曜日（2025 年 6 月 19 日）に、英国の金融政策委員会が予定されている。

英国の政策金利に関しては、追加利下げの圧力が大きい。

しかし、今回（2025 年 6 月 19 日）の英国金融政策委員会では、政策金利据え置きを予想する向きが多い。

ただし、その次（2025 年 8 月）の英国金融政策委員会での利下げの予想は、拡大している。

+++++
+++++

（2025 年 06 月 17 日東京時間 13：45 記述）